

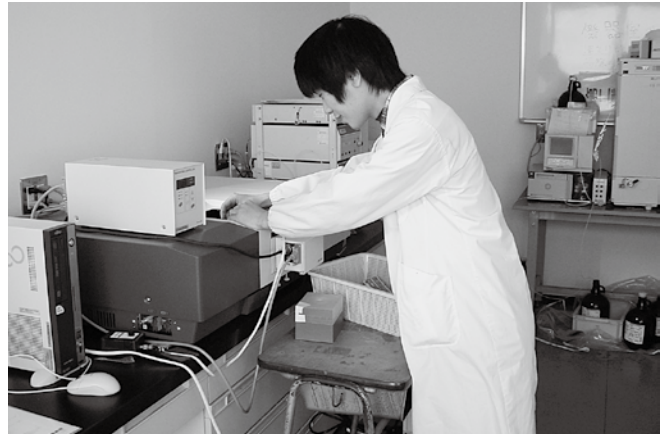
学内先端分析機器紹介(3) — 紫外可視吸収分光分析装置 —

物質化学工学科 松浦 幸仁

CAMPUSにおいて機器分析センターにあるものを中心に最新の先端分析機器を紹介してきました。今回は平成22年度に奈良高専マスタープランに基づく設備更新で導入された紫外可視吸収分光分析装置についてご紹介します。

私たちの身の回りには様々な色彩が施されており、性能だけでなくデザインが商品の購入を決める要因になる場合もあります。私たちの目には、なぜその製品が赤色や青色などに見えるのでしょうか?その原因は、製品の表面に塗られている色素がある特定の色を吸収し、私たちの目にはその補色が見えているからです。補色とは大雑把にいうと正反対の色と考えてください。(例えば、赤色の補色は緑色です。)また、一見すると同じ赤色に見えても微妙に異なる赤色がたくさんあることは、衣類などを購入する際にどちらにするか頭を悩ます原因になります。これらの光の種類は周波数(光が1秒間に何回振動するかを示す値)によって科学的に厳密に分類することができます。紫外可視吸収分光分析装置は、どのよ

うな種類の光がどれだけ吸収されているかを調べることができ分析装置です。この装置を用いれば、人間が感じる微妙な色の差や変化をはっきりと知ることができます。奈良高専の学生は、自分で合成・加工した物質の色をこの分析装置で調べて、教科書に書かれている知識をより確かなものとする実践的で高度なキャリア教育を受けています。



カウンセラーだより

『ころとからだ』

臨床心理士 松浦 純子

2か月に一度ほどの割合で自然を求めてでかけることをしています。と言っても、地域の神社がある森や滝のある公園へハイキングに行くというもので、そこで簡単なリラクゼーション呼吸法をおこない体をリラックスさせます。学生時代に比べ、行く場所の多様性や頻度は減ってしまいましたが、私には欠かせないリラックス方法です。学生の頃からかれこれ十数年と続けているので、時折この時間が取れずにいると体が「そろそろ、出かけませんか?」と私に訴えてくる時があります。これは、「あなたは疲れているから、そろそろリラックスタイムが必要です。」という信号をからだが発信している時なので、その体(ころ)からのメッセージを受け取ると水筒を持ってハイキングに出かけるようになります。

近年、『ころとからだは繋がって

る』とよく聞かれていることだとは思いますが、心療内科領域では、「心身症」と呼ばれる病があります。胃潰瘍や気管支ぜんそく、高血圧、アトピー性皮膚炎、円形脱毛症などが代表的なものとしてあげられますが、これらは心理的なストレスが身体症状としてあらわれる状態のことで、医学的検査ではどこにも異常がないのに本人には何らかの身体的症状が自覚されるというものです。これは、ころと体が密接に関わっていることをよくあらわしているものだと思います。特に心身症になりやすいタイプとして、自分の感情や感覚を捉えることが苦手であったり、それらを言語化することが苦手であることが多いとされています。また、現代社会においては、ストレスフルで、過度の適応を求められる生活などもその原因に挙げられると思います。

しかし、体(ころ)は正直なもので常



にその時の自分に必要なメッセージを発信しています。それを読み取るかどうかは、自分次第なのですが、忙しさの中でそれをおざなりにすると後からくるダメージは、心身症までとはならずとも、相当なものだと思われます。

毎日があわただしく過ぎていくと、日々のことをこなすだけになりがちです。それぞれの生活パターンはあると思いますが、時折、体(ころ)からのメッセージに耳を傾け、そのメッセージに沿うことは日々気持ちよく生活を続けることを支えてくれると思います。

本校では、各学科及び、特別相談員の先生方の相談の他に、松浦カウンセラー(臨床心理士)によるカウンセリングを行っています。一人で悩みを抱え込んでしまわずに、なんでも相談を持ちかけてください。みなさんの一人一人が、より豊かで充実した学生生活を送ることができるようお手伝いをしたいと考えています。

利用方法	学生相談室・保健室で予約できます。(予約制ですが、可能な限りその場で相談に応じます。)
開室時間	心理カウンセラー(臨床心理士)が対応します。月・水曜日 14:00~17:00
場所	本館1階 保健室横 カウンセリングルーム
カウンセリングの方法	カウンセリングは原則として1対1ですが、保護者や友人と一緒に受けることもできます。

カウンセリングルームは、あなたが悩みを打ち明けたい場所でありたいと来室をお待ちしています。

